

梅檀の校庭に

作詞者：不詳

1. 梅檀せんたんの校庭に 集いし我等

誓いて立てし 大中の健児

起てよ鋼鉄くろがねの 響に似て

巖いわきに似たる 力もて

梅檀びやくたん：白檀の異称、かつての大中の校庭に植えていた

巖：高く突き出た大きな岩

2. 見よや見よ 我等が陣屋

臥薪嘗胆がしんしょうたん 栄えある勝利

いざや闊歩かちどきせん 勝鬨を

奄美湾頭に 響くまで

臥薪嘗胆こうせん：中国春秋時代の勾踐の事故「薪の上に臥して胆を嘗める」から転じて目的を果たすために苦勞して努力すること

3. 立てや奮えや 我等が選手

風にすさぶる その大旆たいはいを

いでや叱咤しったせん 我が師すいを

月の桂を かざすまで

大旆：日、月、竜を描いた大きな旗、はっきりした旗印

師：統率者、率に同じ

月の桂：月桂冠＝優勝

※元歌は不明である

